

行歯会だより -第50号-

(行歯会=全国行政歯科技術職連絡会) 2009年10月号

【今月の記事】

- 地域における摂食・嚥下機能支援への取り組み（八王子市・宮下）
- 「モンゴル歯科探検隊」体験記（東京都清瀬市・牟田口）
- 新理事の独り言（東京都・小室）

地域事例紹介

地域における摂食・嚥下機能支援への取り組み

八王子市保健所 歯科衛生士 宮下順子

皆様、はじめまして、歯科衛生士の宮下と申します。

私は、平成19年4月より、東京の西部に位置する、八王子市の八王子市保健所に、嘱託職員の歯科衛生士として勤務しています。

八王子市保健所は平成19年4月、保健所政令都市として、東京都より八王子市に移管となりました。

八王子市保健所の体制は、歯科職が嘱託職員である私一人という状態です。そのため、歯科医師は勿論、他に常勤の歯科職が居ない状況下で、言わば見よう見真似で、行政での業務をこなしています。しかし、私の根底には、地域における歯科保健事業の普及啓発と歯科保健事業と地域の活性化、そして口腔を通し、市民の健康の獲得、疾病の予防を目指したいという強い願いがあります。そのために、日々悪戦苦闘しながら、

所内の地域保健担当の保健師、栄養担当の栄養士や市の高齢者支援課等、そして地域の歯科医師会や地域包括支援センターというように、所内、他課、地域と少しずつコミュニケーションをとり、支援、協力体制を進めてきました。はじめは声かけ一つ、おっかなびっくりで、簡単にはいきませんでした。しかし、それらの地道な活動が実り、最近では、いろいろな事業を連携・協働するほどまでに至っています。

八王子市保健所の歯科保健事業の最大の目標は、目下、地域における摂食・嚥下機能支援にあります。それに必要な事として、地域におけるシステムの確立、及び他職種と歯科職の連携・協働、歯科医師・歯科衛生士の意識の向上、そして市民への普及啓発等、地域が活性化されるよう、これらを地域と連携・協働・支援していきたいと思っています。

具体的な事業としては、高齢者の摂食・嚥下機能支援に関する研修会を中心に、地域の障害者、高齢者の入居、通所施設の職員や訪問介護及び居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション等に広く呼びかけ、普及啓発を行っています。また、同時に歯科職に対しても研修会を行っています。歯科職が地域の中で離れ小島の存在に陥らないよう、医療、介護職同様リハビリテーションのスタメンとして、位置づけられますようお願いを込め支援しています。

お蔭様で、八王子市保健所の歯科保健事業の研修会への参加率も少しずつ高くなり、地域の摂食・嚥下に関する意識の向上が伺われます。若干では有りますが、八王子市保健所の歯科保健事業の地域活動の成果が見られているように思います。今後は、職種によっての参加率の差の緩和、意識の向上にも取り組みたいと思います。

八王子市保健所の歯科保健事業は、このように所内、他課、地域と連携・協働し、業務を進めています。市や地域に対する連携・支援として例えば、八王子市では、現在、高齢者支援課で、地域支援事業の内、一般高齢者施策の口腔機能向上を、八南歯科医師会の八王子支部の八王子歯科医会（以下、八王子歯科医会）に委託しています。八王子市保健所では、このような市と地域が行っている事業も、必要に応じ連携・支援を行っています。この八王子歯科医会への委託事業については、地域が主導となって活動した結果、行政を動かした大変画期的で興味深いケースなので、ここで八王子歯科医会のそれらの活動を少し紹介したいと思います。

八王子歯科医会は、平成 17 年度より、行政の補助や支援を全く受けずに、口腔機能向上事業の普及啓発を目的として、独自で地域の歯科衛生士を対象に研修会等を開催し、その育成及び地域における体制を構築していきました。まず平成 17 年度に八王子歯科医会は、認定協力歯科衛生士と命名した、一定以上のサービスを提供できる

知識とスキルを持った歯科衛生士を養成し、平成 18 年度には、介護保険の通所系事業所での、口腔機能向上サービスを開始しました。それらによって、地域における人材の安定化やサービスの質の担保を図り、スムーズに事業が展開できるシステムを確立させていきました。そして、行政に対しこれらの活動の重要性を訴え続け、ついに、平成 20 年度、地域支援事業の口腔機能向上として、八王子歯科医会は市の高齢者支援課の委託を受けます。そして平成 20 年 6 月より、ポピュレーションアプローチが開始されました。実働するのは八王子歯科医会で養成され、認定を受けた認定協力歯科衛生士です。実施に至るまでの流れは次のようになります。まず、地域包括支援センターが管轄内の老人会や町会にポピュレーションアプローチの案内を流します。その案内を受け、興味を持った老人会等が、地域包括支援センターに申し込みをします。その申し込みを地域包括支援センターは、市の高齢者支援課に報告・連絡します。高齢者支援課は、それらを八王子歯科医会に依頼・連絡し、八王子歯科医会は、認定協力歯科衛生士のメーリングリストに情報を流し、そこから担当認定協力歯科衛生士を決め、老人会等に出向いて行き、実施に至るという流れで行っています。（この事業について八王子歯科医会は、第 14、15 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会にてポスター及び口頭にて発表しています。詳細はそちらをご覧ください。）

高齢者支援課では、ポピュレーションアプローチの対象を、老人会や町会だけでなく、地域の介護事業所等にも広く活用してもらい、勉強会として役立ててもらえる事も狙いとしています。保健所として直接それらに関わることはありませんが、それら事業所や市、包括、又は歯科医会との繋ぎ役として、多種の相談を受けています。事業自体にはあまり立ち入らず、保健所が間に入り簡単な交通整理役を果たす事で、微力ではありますが、少しでもスムーズな展開

と地域への普及啓発、さらに事業の定着を支援できる事は、大変強い意義を感じます。

今後も、市民や事業所等から、第2、第3の八王子歯科医会のような団体が現れ、行政を動かして地域を活性化させていってもらいたいと思います。そして八王子市保健

所として、それらの活動の下支えをしていきたいと思います。今後も八王子市における歯科保健事業の普及啓発と健康の維持、向上を目指し支援していきたいと思います。

「モンゴル歯科探検隊」体験記 ～行ってきました！ボランティア活動8日間～

東京都清瀬市健康福祉部健康推進課 愛と勇気の歯科衛生士 牟田口郷子

*モンゴル歯科探検隊とは…「日本モンゴル文化経済交流協会」による市民レベルでの相互理解と友好を目的とした草の根交流の歯科分野活動。交流を中心に14年目となる。今回は主にウランバートルに滞在し、エレネル歯科診療所開設15周年記念式典、交流会、セミナー、国立医科大学における初の小児歯科学会、障害者施設への出張歯科診療、孤児院での歯科保健活動などを行った。

雲を抜けると、そこは砂漠だった。成田を飛び立つこと4時間、モンゴル航空機が高度を下げ雲の下に出ると見渡す限りの砂漠である。干上がった湖から川の跡が蛇行している。人工物らしきものは何もない。そしてその光景が1時間は続く。やがて道らしきスジが見え、その先をたどると集落がぽつんぽつんとある。その先の建造物が密集しているところが首都ウランバートルである。



どこまでも砂漠



ダルハンの歯科診療所

モンゴルの国土は日本の4倍強、人口は約270万人、うち100余万人がウランバートルに集中する。人口の3割は地方で伝統的な遊牧を営んでいる。街中でも民族衣装デールを着た人を見かける（サザエさんのフネさんのようなものか）。1990年、無血の民主化を遂げ、経済急発展最中のウランバートルは日本の高度成長期さながらであろう。溢れる車の間を縫って人々が行き交い、交通事故も急増中。中国、韓国始め世界中からあらゆる物が流れ込み、大変活気があるが、歯科衛生士としては

子どものむし歯が気にかかる場所である。歯科医師数は500～600人、多くはウランバートルで開業していると聞く。

子どもはむし歯が気にかかる場所である。歯科医師数は500～600人、多くはウランバートルで開業していると聞く。

今回訪れた第二の都市ダルハンには人口6万5千人、歯科医師は16人、うち5名は公立病院勤務とのこと。日本の歯科医師によるセミナーには16人中14人が参加した。セミナー

一後、市内3軒の歯科医院を見せてもらったが、ゆったりとした診療室、スタッフも揃っており、オートクレーブはもとよりガス滅菌機も備え、滅菌パックをふんだんに使い十分な感染対策も取られていた。モンゴルでは歯科治療を受けられるのはかなり裕福な層であるようだ。現地の先生方の関心は治療にあり、予防に向かうにはまだ時間が必要なようであった。

障害者入所施設では歯磨き指導の後、日本の救急車を改装した訪問診療車で健診を簡単な治療が行われた。食生活を管理されているためか酷いむし歯は少ないが、ほぼ全員に重度の歯肉炎があり、歯磨きまでは手が回っていないと推察される。入所児10人うち親のいる子は3人だけだという。私は東京近郊の山の中腹にある特別養護老人ホームでの光景を思い出した…。



訪問診療車



孤児院では2歳～6歳ぐらゐの子どもに歯磨き集団指導を行った。子どもたちの集中力が素晴らしい！日本にもかつてこんな時代があったのだろうか。清瀬に帰ったら、子ども自身の育つ力をもっと信じ、自分でできることが増やせるような事業を考えようと思った。



はげしい歯肉出血



孤児院にて歯磨き指導

モンゴルで強く感じたの

は、人々の向学心と活気である。エネレル歯科診療所やダルハンでのセミナー、小児歯科学会、孤児院での歯科指導でも、人々の学び吸収するエネルギーに圧倒された。この素晴らしいモンゴルの人々に、日本が戦後むし歯の洪水となった轍を踏ませてはならない。私のフィールドは歯科保健分野なので、モンゴルの歯科保健状況をもっと調べてみたいと思った。

モンゴルの英雄チンギス・ハーンという言葉に「モンゴル人が鞭を持って立ち上がれば、すべての力を手に入れることができる」とある。私は言う、「我々歯科衛生士が歯ブラシを手にとり立ち上がれば、すべての人の口腔の健康と幸せを手に入れることができる！」。世界中に我々がやらなくてはならないことがたくさんある。自分の地域だけでなく、また友人であるモンゴル国のため、すべての人のために立ち上がろう！

最後に、快く送り出し、8日間、清瀬市の歯科保健を守ってくださった職場の仲間、歯科スタッフ、同行の歯科探検隊の皆様には深く感謝します。バイラルラー（ありがとう）！



新理事の独り言(その46)

井の中の蛙、井の中も知らず…

東京都荒川区保健所 小室 貴子



行歯会の皆様こんにちは、このたび東京ブロックの理事を仰せつかりました、荒川区の小室貴子と申します。いつも貴重な情報をありがとうございます。歯科衛生士歴は両手におさまり、行政歴にいたっては片手で足りる私です。皆様にご迷惑をおかけするばかりとは思いますが、どうぞよろしくご指導のほどお願いいたします。

私が勤務しております荒川区は、東京23区の北東部に位置し、10.20 km²ほどに約20万人が暮らす小さな区です。なんと、荒川区には荒川は流れていません！これを知ったときには本当にびっくりしました。

(区の北東部を流れる隅田川が、昭和39年まで荒川と呼ばれていたことから区名に採用されました)区内の交通網、JRは山手線・京浜東北線・常磐線の3線、東京メトロは千代田線・日比谷線の2線が走り、他につくばエクスプレス、京成線、都電荒川線(ちんちん電車)が通り、平成22年の成田新高速鉄道の開業に向け駅前の再開発も行われています。23区で唯一の区立遊園地があり、活気あふれる庶民の台所の商店街が区内に50か所もあり、勤務してからというもの、区の暖かさにぬくぬくしております。しかし、区行政に勤務する歯科専門職は、常勤歯科衛生士は私1人、他に非常勤歯科衛生士が3名、再雇用歯科衛生士が1名という配置です。前任者が築いたものを壊さぬよう、必死で毎日を過ごし

ている状態です。予算・決算も議会もすべてが初めてのことばかり、またこれほど大きな「組織」の中で働くということに慣れず、周囲の支えなくしては今の私はありません。

現場で仕事をするときには、「いつもそこに区民の笑顔があるように」と願っています。ついつい、口の中だけを見てしましますが、それだけのために人は暮らしていません。それでも「笑顔で美味しくご飯を食べる」ことはとても大切なことと思っています。「専門職である限り専門性の高さは求められる。しかし、専門性を活かすためには信頼関係が必要である。その信頼関係は人間性に拠る。どんなに正しい情報や提案であっても、その伝え方や語調の強さ、言葉の選び方に人間性が現れる。信頼関係の構築も『支援』であることを再確認したい。」という私の心に残る言葉があります。専門職としての切磋琢磨だけでなく、信頼関係の築ける、そんな仕事をしていきたいと思っています。

井の中の蛙の私は、井の中の状態もわからぬまま、大海の様子を聞いて驚いている状態です。行歯会の皆様、同じ特別区の先輩歯科衛生士、研修を一緒に受けた仲間、職場の先輩、大学の恩師、活動を共にする仲間、多くの人に助けていただきながら、早く恩返しができるように精進していきたいと思っています。

○ 学会・研修会のご案内 ○

日F会議・第33回むし歯予防全国大会	期日：平成21年11月14日（土） 開催地：富山市 http://www.nponitif.jp/newpage100.html
第19回全国歯科保健研修会	日時：平成21年11月20日（金）10:50-17:00 会場：高知県立県民文化ホール第6多目的室
第30回全国歯科保健大会	日時：平成21年11月21日（土）12:30-17:30 会場：高知県立県民文化ホール オレンジホール
第6回日本口腔ケア学会総会学術大会	期日：平成21年11月20日（金）、21日（土） 会場：栃木県総合文化センター ※ 会場は、県庁のすぐそばです。こちらに来られる方は、是非、県庁の15階からの眺めをお楽しみ下さい。 http://www.oralcare-jp.org/news/index.html

編集していて気付きました・・・なんと、今回は第50号！

行歯会も発足して、5年目となりました。会の発足の話を書き、どんな会になるのだろうとワクワクしていたのがつい昨日のようです。100号を迎える頃には、どんな会になっているのだろうと考えると、またワクワクします。

年末、年度末に向かって、さらに御多忙を極める会員の皆さま、仕事オンリーの秋とならないよう、読書、スポーツ、そして食欲の秋と、体調に十分気をつけながらそれぞれの自分の秋を楽しんでください。

【編集担当】

